ロシア・東欧学会／ロシア史研究会／JSSEES／日本ロシア文学会
2012 年合同大会企画

共同シンポジウム

リーダーとリーダーシップを作るもの

日時：2012 年 10 月 7 日（日）14:00～17:30

場所：同志社大学新町キャンパス臨光館　R301 室

▶▶▶ プログラム ◀◀◀

14:00	開会の挨拶：望月哲男（4 学会合同大会企画委員／北海道大学） 趣旨説明、パネリスト紹介、ルール説明
14:05-15:10	第１部　司会：鴻野わか菜（日本ロシア文学会・JSSEES／千葉大学） 報告１　三浦清美（JSSEES／電気通信大学） 反乱の世紀における中庸の指導者――アレクセイ・ミハイロヴィチの場合 報告２　村田真一（日本ロシア文学会／上智大学） 1900－30 年代のロシア文学におけるリーダーのイメージ
15:10-16:15	第２部　司会：下斗米伸夫（ロシア・東欧学会／法政大学） 報告３　池田嘉郎（ロシア史研究会／東京理科大学） 革命期ロシアにおけるリーダーシップ：構想・制度・人物 報告４　永綱憲悟（ロシア・東欧学会／亜細亜大学） ソ連人としてのプーチン――個性とリーダーシップ
16:15-16:25	休憩
16:25-17:30	全体討論・総括　司会：望月哲男

17:30-17:45　特別プログラム

ICCEES 幕張大会(2015)に関するアナウンス　同大会組織委員会

18:30　合同懇親会　於　京都平安ホテル（詳細は 4 ページ参照）

シンポジウムの趣旨

20 世紀末の地球規模での体制変動や再編を経て、現代世界の各所に於いて新しい社会秩序の下で、新しいリーダーシップが現われつつある。しかし社会体制自体がそうであるように、リーダーシップを支える力や論理も単純なものではない。すなわちそこには、「民主的で公正な」政治に関するグローバル・スタンダードや、歴史を通じて培われた地域固有の権威や権力のイメージ、さらには現実世界における力や利害の論理等々、様々な要因が作用している。2012 年ロシアで生じた大規模な反プーチン運動と、それにもかかわらずすんなりと誕生した第 3 期プーチン政権との関係を見ても、そうした複雑な状況をうかがうことができる。一言で言えば、リーダーシップの有り様は社会文化的な構築物であり、それゆえに歴史の各局面におけるその国の姿を示すと言えるだろう。

スラブ・ユーラシア（旧ソ連・東欧）を研究対象とするロシア・東欧学会、ロシア史研究会、JSSEES、日本ロシア文学会の 4 学会による第 2 回共同シンポジウムは、以上のような趣旨から、この地域におけるリーダーとリーダーシップのあり方を共通論題として取り上げることにした。

リーダーシップの形が一国の歴史・文化的構築物である以上、我々の議論の対象は現代の政治状況ばかりではなく、それよりはるかに広い範囲を射程にいれたものとならざるを得ない。思想論、社会文化論、社会学、表象論、歴史学、政治学、経済学、国際関係学等、各学会の研究分野に関わる多様な視点から、スラブ・ユーラシアにおけるリーダーとリーダーシップの構造と、そこに働く諸力を総合的に考察することが今回のシンポジウムの目的である。

それは体制転換後 20 年の旧ソ連・東欧社会の歩みを振り返り、「今」と「過去」の関係を総合的に性格付ける上でも有益な作業となるだろう。

4 学会合同大会企画委員会

（兵頭慎治・横手慎二・佐藤昭裕・諫早勇一・望月哲男）

報 告 の 趣 旨

三浦清美　　反乱の世紀における中庸の指導者――アレクセイ・ミハイロヴィチの場合

趣旨：17 世紀ロシアも、ロシア史にはめずらしく、民衆の自己主張が前景化した「反乱の世紀」であった。そのなかで、有名な歴史家クリュチェフスキイから「きわめて善良な人間、素晴らしいロシア的魂」と評されたのが、アレクセイ・ミハイロヴィチ帝（在位 1645-1676）である。アレクセイは古いロシアが新しいロシアに劇的に変貌する前夜に生き、その二つのバランスをとりながらツァーリとして君臨した。本報告では、反乱の世紀におけるこの中庸の指導者のあり方をつうじて、ロシアにおけるリーダーシップの可能性を考えたい。

村田真一　　1900－30 年代のロシア文学におけるリーダーのイメージ

趣旨：20 世紀初頭から 30 年代にかけてのロシア文学には、ツァーリや古代ヨーロッパの皇帝を描いた作品が散見される。そのようなリーダーは、シンボリズムに歴史的関心を植えつけた D. メレシコフスキーの「聖と俗」、あるいは M. ブルガーコフの「現実性と呪術性」を合わせもつ境界的存在である場合が多い。また、ツァーリを異化した、M. クズミーン、K. ヴァーギノフ、D. ハルムスらは、そこにソ連の指導者像を投影しようと試みた。報告では、リーダーのイメージの変容と文芸思潮との関係に法則性を探りつつ、文学テクストに隠されたメッセージを解読したい。

池田嘉郎　　革命期ロシアにおけるリーダーシップ：構想・制度・人物

趣旨：共和制ロシアをどうやって旗揚げしようか？　ロシア史上何度も口にされたこの問いは、当然のことながらリーダーシップのあり方とも深く関わっていた。1917 年革命の日々にあっても、国家元首の権限は？　大統領制は？　お手本とする国は？・・・等々の点が喧しく論じられた。実際の制度とそれを動かした人物を、実現しなかった構想とあわせて考えることで、革命期ロシアにおけるリーダーシップについて検討したい。転換期を取り上げることで、ロシアでは強力なリーダーシップが避けられない、という見方からもいったん距離を置くことができるだろう。

永綱憲悟　　ソ連人としてのプーチン――個性とリーダーシップ

趣旨：比較政治分野におけるリーダーシップ論は、トップ・リーダーと複数のアクターおよび制度との相互作用の分析に焦点をあてることがモードとなっている。だが、ことロシアにおいては、指導者の個性（パーソナリティ）への着目がなお一定の有効性を持つ。ただし、「大統領ツァーリ論」のようなやや単純な議論への帰着を避けるために、本報告では、世論調査や選挙結果などの数値を援用しつつ、社会基盤とリーダーとの関連性を抽出してみたい。そのさいプーチンの個性がソ連時代に形成されたということを分析の主軸とし、いくらか歴史視点を加味することとしたい。

4 学会合同懇親会のご案内

日時：10 月 7 日（日）　18:30-20:30

会場：京都平安ホテル 2 階　「東山」
京都市上京区烏丸通上長者町上ル　TEL:075-432-6181

会費：一般　8,000 円、大学院生　4,000 円

懇親会会場案内図